

# 注 意 報

農技セ第7008号  
平成30年6月1日

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成30年度農作物病害虫発生予察情報について

平成30年度農作物病害虫発生予察注意報第1号を公表したので送付します。

## 平成30年度病害虫発生予察注意報第1号

平成30年6月1日  
徳 島 県

県東部地域のネギについて、5月6半旬の巡回調査の結果、ネギアザミウマによる被害が平年に比べ多く、向こう1か月の平均気温も平年より高くなると見込まれていることから、今後も発生が増加し被害の拡大が懸念されますので、注意報を発令します。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：ネギ

病害虫名：ネギアザミウマ

1. 発生地域 県東部のネギ栽培地帯
2. 発生時期 6月～
3. 発生程度 多(前年並, 平年より多い)

#### 4. 注意報発令の根拠

(1) 5月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%と、ほぼ平年(77.5%)並の発生であるが、被害度は19.3と、平年(7.6)に比べて高い。

(2) 高松地方气象台が5月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

※被害度の計算式

$$\text{被害度} = \frac{4A + 3B + 2C + D}{4 \times \text{調査株数}} \times 100$$

A: 被害葉率が51%以上

B: 被害葉率が31～50%

C: 被害葉率が16～30%

D: 被害葉率が1～15%

#### 5. 防除法等

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、系統の違う薬剤を輪番で使用する(表1)。
- (4) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表1 ネギでアザミウマ類に登録のある農薬(農薬登録内容：2018年5月31日現在)

系 統	RACコード	農 薬 名	希 釈 倍 数	使用時期	使用回数
※播種時,定植時処理					
ネオニコチノイド系	4A	スタークル,アルハリン粒剤	6kg/10a 株元散布	定植時	1回
	4A	アクタラ粒剤5	6~9kg/10a 作条混和	植付時	1回
4A	モスピラン粒剤		6kg/10a 作条混和	播種時	1回
			6kg/10a 播種土壌混和	播種時	1回
			6kg/10a 植溝土壌混和	植付時	1回
			0.25~0.5g/株 株元散布	定植前日~ 定植当日	1回
※発生初期散布剤					
ピレスロイド系	3A	アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	5回
ネオニコチノイド系	4A	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000倍	14日前まで	2回
	4A	アクタラ顆粒水溶剤	1,000~2,000倍	3日前まで	3回
	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	3回
その他	6	アニキ乳剤	1,000倍	3日前まで	3回
	29	ウララDF	1,000~2,000倍	前日まで	3回
	UN	プレオフロアブル	1,000倍	3日前まで	4回
	5	ディアナSC	2,500~5,000倍	前日まで	2回

いずれかの  
処理で  
1回



図1 ネギアザミウマによる被害の様子



図2 ネギアザミウマ成虫